

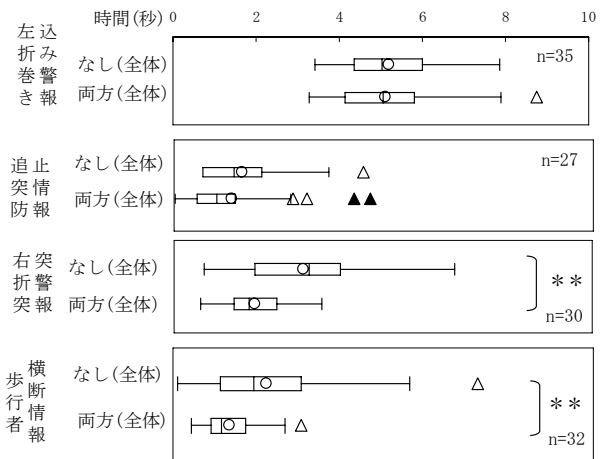
運転者の安全運転を支援するための情報提供のあり方に関する調査研究（平成16年度）

カーナビゲーション装置等を介して危険要因に対する注意情報を視覚・聴覚により運転者に提供する安全運転支援システム（DSSS）の実用化が期待されていることから、同システムが実際の運転行動に与える影響、情報内容に対する運転者の評価等について、実走行によるデータを収集・分析し、安全かつ効果的な情報提供を行うための基礎資料を得た。

- ① 走行実験は、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の模擬市街路等を使用して、乗用車にモニター画面、情報提供用パソコン、走行データ計測用センサー、データ収集用パソコン等を搭載し、40名のドライバーに対して行った。提供する情報は左折巻き込み情報、本線合流情報、追突防止情報、右折衝突警報、出会い頭衝突警報（主道路）、出会い頭衝突警報（従道路）、歩行者横断情報の7パターンとし、先行車両、対向車両、並走二輪車、横断歩行者等を各場面に応じて配置した。

図 ブレーキ操作開始までの時間(秒)

- ② 走行データ分析結果によると、情報提供によりブレーキを踏むタイミングが早まり、タイミングのばらつきも小さくなった（図）。追突防止情報では最大ブレーキ踏力も10～20%小さくなった。出会い頭衝突警報（従道路）では情報提供により、交差点手前で減速する車両が30%から70%前後に増加し、また一時停止交差点でわずかではあるが停止・徐行する車両が増加した。アイマークレコーダ分析結果によると、情報提供により安全確認のために左右、ミラー、先行車両、他車を視認した人数や視認時間の割合が増加した。



注：\*\* 危険率1%未満で有意差あり。

- ③ 被験者のヒアリング結果をみると、情報提供のタイミング（実験では危険場面に遭遇する4秒前に設定）については、ちょうどよいとの意見が多くを占めたが、左折巻き込み、合流支援、追突防止については、提供タイミングが遅いとの意見が多かった。提供画像については見やすいとの意見が多かったが、合流支援、追突防止、出会い頭衝突（従道路）では見にくいとの意見が30～40%を占めた。提供される音声については90%以上が聞きやすいと回答した。情報提供システムがあれば運転が安全になるとの意見がほとんどであったが、情報が画像のみの場合は「画像をずっと見ていると危ない」など問題があるとの意見が過半数を占めた。
- ④ この走行実験において、画像又は音声を用いた左折巻き込み情報、合流支援情報、追突防止情報、歩行者横断情報、出会い頭衝突警報については走行状況の改善または安全確認の頻度増加が認められ、情報提供による事故防止効果が確認されたことから、今後、システムの早急な実用化が期待される。また、提供する情報の種類、提供タイミングの適切な設定、システム過信の防止策など更に詳細な分析検討が望まれる。